琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.105
2023. August

発行者　琉球病院事務部長
大城　英作

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

2023年6月1日より アルコール依存症病棟を再稼動しました!!

看護師長 松井　廉

新型コロナウィルスの影響で、暫く休棟していたアルコール依存症病棟が再稼動して2ヶ月が経過しました。久里浜医療センターから赴任した真栄里副院長を筆頭に、多職種（医師・薬剤師・看護師・心理士・作業療法士・管理栄養士・ソーシャルワーカー）チームでプログラムを運営しています。表に示すように午前・午後と準備されているプログラムの内容は、アルコール依存症の方が病気に対する正しい知識を学び、断酒に向けた行動、動機を高めて行ける内容になっております。午前中のプログラムは、心理士や作業療法士が行っております。午後のプログラムは、看護師が中心となって行っています。つづり方教室や絵画療法では、それぞれのテーマに沿った内容を考え家庭や社会、周囲へ与えた影響を振り返ります。初めは否認していた患者さんも、「断酒」の必要性を認識され「断酒」に必要な知識とスキルを学ぶことで、発言内容に変化がみられるようになります。患者さんが必死に学んで回復していくその姿に、こちらが励まされることもあります。

	月	火	水	木	金
午　前	SST	作業療法	運動療法	変化のステージミーティング	ストレスマネジメント
午　後	輪読会(Ns)	ミーティング(Ns)	心理教育(多職種それぞれのテーマ)	絵画療法(Ns)	真栄里教室つづり方教室(Ns)

先日、患者さんと一緒に断酒会へ参加しました。初めて参加する患者さんへ向けて、断酒会員の皆さん御自身がこれまで経験してきたエピソードや、入院当初の揺れ動く初心などを語ってくださいました。そして、「入院中にARP（アルコールリハビリテーションプログラム）で学んだことをその通り実行し断酒生活が続いている」ことや、更には、「断酒会の仲間意識が断酒の力になっている」事など、今後断酒と言う同じ目標に向かっていく新たな仲間として、受け入れていただいた歓迎の言葉に温かさを感じました。今後も自助グループの方の力をお借りする事や、地域の支援者の皆さんと連携する事が多々あると思います。その際には、どうか力を貸してください。

7月からは、家族教室を開始しています。お酒をやめたくても中々やめられない方、飲酒問題で困っているご家族の方、是非、専門スタッフにご相談ください。私たちがお手伝いをします。

地域医療連携室だより

精神保健福祉士　池間　ゆかの

琉球病院では、地域、行政、他医療機関からの相談窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症や治療抵抗性統合失調症に効果のあるクロザピン治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。

初診はじめ、受診については予約制となっております。ご相談はお気軽に地域連医療携室までお問い合わせください。

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353床

- 精神　151床
  （一般精神・クロザピン専門・精神科救急）
- アルコール依存症　44床
- 児童思春期ユニット　4床
- 重症心身障がい　90床
- 医療観察法　37床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間　8:30 ～ 17:15
（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL　098-968-2133（代）
内線　231・234

地域医療連携室（直通）

TEL　098-968-3550
FAX　098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医師　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では 2010 年 2 月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ 390 例になりました。2023 年 6 月の CLZ 導入数は 2 例でした。CLZ 治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に 3 回の CLZ 専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院での CLZ 治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (https://drs - net.novartis.co.jp/dr/product/clozaril/guide/) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

こども心療科

心理療法士　我喜屋　良行

子ども診療科の外来待合室では、来院される患者さんやご家族が少しでもホッと一息つけるように、季節に合わせた掲示物や装飾をスタッフが手作りしております。

7月は七夕があり、竹を設置しました。短冊には来院される子どもたちの願い事がキラキラと輝いておりました。

今後も季節に合わせた待合室にしていきますので、その変化を楽しんでいただけたらと思います。

重症心身障がい医療

療育指導室長　金城　安樹

沖縄県には重症心身障害児者施設が 5 施設あります。当院の重症心身障害病棟（療養介護・障害児入所支援）は強度行動障害を伴う重度知的障害児者の方に対する受け入れや相談が多い事が特徴としてあげられます。短期入院により行動障害が軽減し地域移行をはかる取り組みを行っていますが、長期的な入院が必要となる場合もあります。令和 4 年度中の新規入院者数は7名、退院（地域移行）は 3 名でした。入院生活のなかでは生活リズムの改善、環境調整、リハビリテーション、コミュニケーション活動、適切な行動の強化、安全管理、日中活動、レクリエーション行事、家族交流等の支援をとおして、利用者 1 人 1 人がその方らしく豊かな生活が送れる事を目指します。医師・看護師・児童指導員・保育士・作業療法士・理学療法士・ソーシャルワーカ・栄養士等の多職種が連携・協働をとおした支援を提供しています。

DPAT 活動報告

心理療法士　高江洲　慶

6 月 17 日に福岡で行なわれた DPAT 先遣隊隊員の技能維持研修に当院から 4 名参加しました。DPAT 先遣隊とは、日本各地で自然災害が発災したときに 48 時間以内に被災都道府県で支援活動をする精神科医療チームをさします。当院には 8 名の職員が DPAT 先遣隊の研修を受講して隊員資格を取得しています。今回参加した技能維持研修は、隊員が発災時の支援に必要な知識や技能を維持するため定期的に行なわれている研修です。研修には北海道から沖縄まで全国からインストラクターも含めて 100 名超の隊員が参加して、机上訓練を行ないました。具体的には、ネット上で緊急医療情報の送受信をしたり、被災地で活動の拠点となる本部を立ち上げたり、被災した精神科病院への現地支援、緊急時の患者搬送や必要物品の調達のための情報の収集と整理、情報の共有など実践的な訓練を行いました。被災都道府県から支援要請があった場合に、迅速に適切な支援を提供できるように取り組んでいます。

外来だより

外来師長　伊敷　史子

今年度の琉球病院外来部門の目標は、地域との連携を深め連携強化をモットーに頑張りたいと考えています。外来では他職種と連携し外来 ARP（アルコールプログラム）の再開と定着を目標としております。外来部門において一般精神をはじめ、アルコール依存症、クロザピン外来、認知症、薬物依存症やギャンブル依存症、子ども診療科（予約制）の診察が可能となっております。また、アルコール依存症治療には、入院加療もありますが、事情により入院加療が厳しい方は外来 ARP（アルコールプログラム）を通院しながら受講できるように外来プログラムを準備しています。ご希望される方は外来窓口へお越しください。まずは外来や地域連携室へご相談ください。